

作業科学は、個人の日常の何気ない作業の形態と意味と機能の研究から始まり、さまざまな作業の歴史的变化や文化的意味を探り、現在は社会変革への関心が大いに高まっている。吉川 ひろみ (2023). 作業科学と幸福 作業科学研究, 17 (1), 1-9.

作業科学は社会のひずみに影響された人々に光を当て社会変革のための提言をすることも可能であると確信した。西方 浩一 (2019). 作業の理解と拓がる可能性 作業科学研究, 13 (1), 1.

もし、作業科学が社会的変革を担う方向へと移行するつもりがあるのなら、作業科学者たちは参加の変革的モデルを十分に取り入れる必要があることを議論する。

デッピ・ラリベテ = ルドマン (2019). 変革的な学問：参加の革新的形態に向けた可能性と挑戦 作業科学研究, 13 (1), 11-31.

我々の地元地域やコミュニティにおいて集合体としての作業を通じてすべてのソーシャル・インクルージョンが可能となれば、今日の社会において多くの人々が直面する生活上の不公正な状態に対処するために必要な社会変革の一助となるだろう。

サラ・カンターズィス (2018). 作業を基盤としたソーシャル・インクルージョンの視点：地域や社会における集合体としての作業 作業科学研究, 12 (1), 14-37.

いくつかの「wicked(ひどい)問題」を何と言うか決めるために、作業のレンズが、どのように、障害、貧困、移民、環境破壊、そして肥満に関連する、社会的課題の新しい洞察を浮かび上がらせることができるかを想像してみたい。

エリザベス・タウンゼント (2017). 作業のレンズを通してみる社会の課題 高齢住民にとっての作業的公正と作業権とは？個人的、社会的視点 作業科学研究, 11 (1), 12-27.

デューイの貢献は、私たち一人ひとりが世界のなかでよりよく生き、よりよく学ぶことができるように、「コモン・マン (common man)」のための哲学、すなわち「一般の人」のための哲学を探究し、教育と哲学と社会に大きな変革を引き起こしたところにある。その思想は、誰一人として取り残されることのない社会の実現に向けて、新たな教育と学びをデザインし創造しようとするものであった。

上野 正道 (2022). ジョン・デューイ——民主主義と教育の哲学 (岩波新書 新赤版 1945) 岩波書店

理想的な社会としてデューイは、「すべての成員が等しい条件でその社会の福祉に関与できるように条件が整備され、いろいろな形の共同生活の相互作用を通じてその制度を柔軟に調整し直すことができるようになっていような社会」という「民主的な社会」を構想している。それは、慣習を維持することを基調とする伝統社会と対比して捉えることができ、相互関係の中で社会変革がなされていることが強調されている。野村 一貴・松本 奈々子・三木 柚香、佐藤 智子 (2019). ジョン・デューイの教育論における「社会」——2019年度前期「生涯学習研究の理論と方法」を通してII——生涯学習基盤経営研究, 44, 45-57.

社会システムが各集団にどのような形で影響するかは、国や文化によって異なるだろう。しかし、ある集団が他の集団の犠牲のもとに不当な形で特権を得ているとすれば、そこには必ず社会変革が必要となる。特権集団に属する人々は、このような不当なシステムのもとで得られた特権は自分たちにも害があることを理解すれば、不公正をなくすうえで大きな役割を果たすことができるのである。

ダイアン・J・グッドマン 出口 真紀子 (監訳) (2017). 真のダイバーシティをめざして——特権に無自覚なマジョリティのための社会的公正教育. 上智大学出版

変容型シナリオ・プランニングは、新しいストーリーをつくる方法の一つだ。それは、ある社会システムで起こりうることを探求するための体系的、創造的な手法である。これから起こるべきこと (ビジョン) や起こるだろうこと (予測) のストーリーを一つだけ作成するのではなく、これから起こる可能性があること (シナリオ) に焦点をあてて複数のストーリーを作成することで、地に足がついていながら、新しい何かを生み出す行動を引き出す効果がある。

アダム・カヘン 小田 理一郎 (監訳) (2014). 社会変革のシナリオ・プランニング——対立を乗り越え、ともに難題を解決する. 英治出版

日本作業科学研究会 第27回学術大会 in 埼玉

テーマ

作業と社会変革

Occupation and Social Transformation

会期：2024年9月7・8日(土日)

会場：文京学院大学ふじみ野キャンパス(予定)

大会長：西方浩一